

4 S・K さんへ

大鹿村大河原中学校二年 M・N

もうあのおどろしい集中豪雨も、夢のように五カ月過ぎましましました。

S さんのことを考えると、思ひ出になることは、やはり、今日と成ったも、S さんはもうこの世の人ではないという事は心にあって、どこかにまだ生きています、私の目の前に現われて来るような気がしてなりません。S さんのことを考えれば、考えるほどどこかに生きているのではないかと思つてしまふのです。S さんが静かに目ざとびてから、もう五カ月もたつてしまいました。きつと天国には、なれたころだと思つて安心しています。アルバムを開いては、S さんの写真をみる、目ざとびて五カ月前のことを思い出せば、楽しかったこと、苦しかったことなどが次から次へと浮かんで来るのです。

S さんと私は大の友だちでした。いつも私と S さんはほとんどいっしょに歩きました。クリスマスなどのときは、プレゼントを三度もくれました。それは小さな箱の中へ本の付録などを入れてくれました。その他、絵、シール、バッジ、本もくれました。このような物がかたみとなつて残つていて、見るたびに泣けまします。

一年のときはグループが、いっしょだったのですが、当番などは、仲よくやりました。S さんは、私が体育館の掃除をしていると、自分の掃除を早くすませて、おかえに來てくれました。私の家に何度か遊びに來たこともありました。私の名まえを「M テンタック」とか「M テンカック」と言つて呼んでいま

した。Sさんは私がいうことを聞かないと、よくもめえ。ななびとあら
い言葉をつかつたこともありません。こんなことを思い出し、いれば、きりが
なく思い出されまくるのです。

私が今一番残念に思っていることは、二十七日の休みにはいる前の日に、帰
るとき、一あした版画の板を持ってき、うつしめえよ。と、かたく指切りを
しておい、そのことを実行できず、Sさんとわかれ、しまったことな、
す。あんなに明日の喜びを指切りしておいたことを、大西山のために消され、
しまいしました。私はくやくしくたまりません。Sさんもきつと天国で、私と
同じ考えを持って、大西山をばんなにうらんでいることでしょう。

私たちのクラスでは、毎月二十九日に、SさんとK君のお墓まいりにいく
のです。私はお墓の前で手を合わせ、一カ月のできごと、楽しかったことな
びを伝え、やるのです。どうすれば、SさんもK君も、うれしいこと、
う。お墓の前へ立つと、もり上がった土の下に、SさんもK君も、
眠っているのだと思うと、そのもり上がった土をほ、顔を見たい気がして
なりません。でも顔を見たいことばかり考えていると、どこか、Sさんが、
私の名をよんでいるような気もして、気が悪くなります。

でも、もう一度、いい。Sさんと仲よく楽しく遊んでみたい、Sさんの
顔をじっくり見たい。こんな夢を持って、実際に、出合えるわけでもない。
Sさんも夢を持って、天国で私たちを見守って、くれる。大西山だけは、
いても、私たちだけは見守って、くれるにちがいない。安心して、学校生活を

(98)

いきたいと思います。

(三十六年)